

県外大学等進学サポート事業 アンケート結果

令和 7 年 7 月 10 日
沖縄こどもの未来県民会議事務局

I アンケートの概要

目的：令和6年度に実施した本事業の改善の必要性、本事業を活用した感想、事業の効果等を支援者にお伝えすることを目的に実施

期間：令和6年1月9日～令和7年4月30日

対象：県外大学等進学サポート事業給付者217名、保護者

回答者数：174名（回答率：80.2%）保護者176名

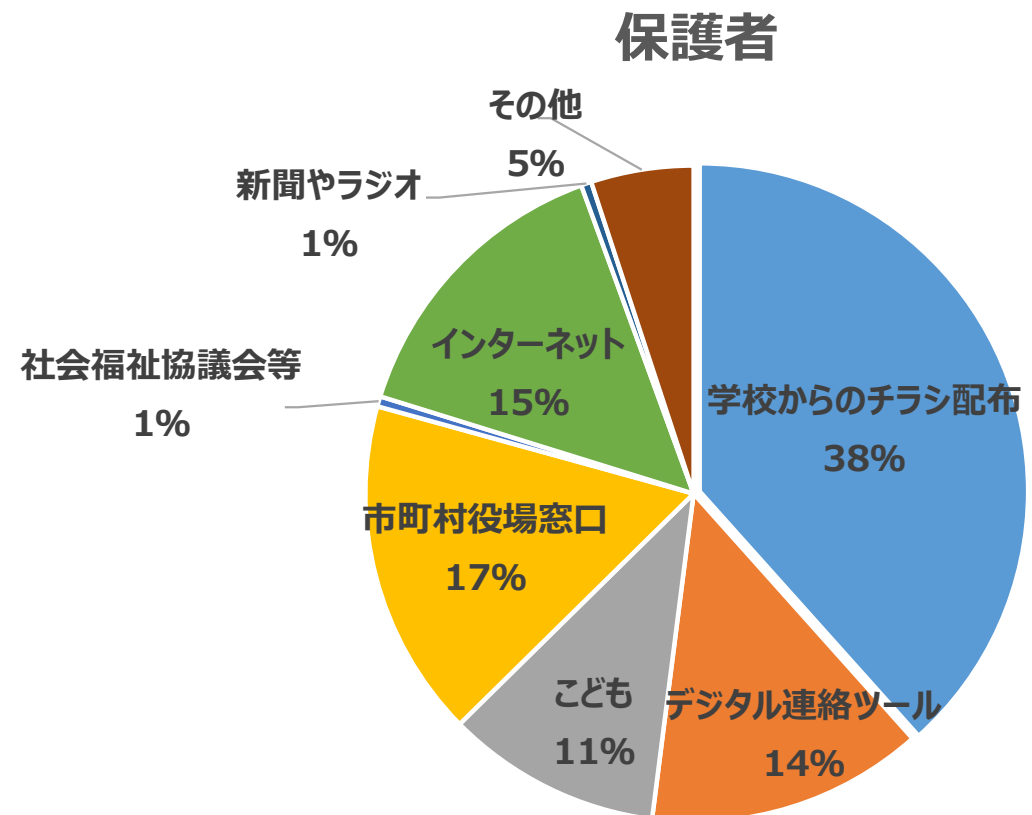
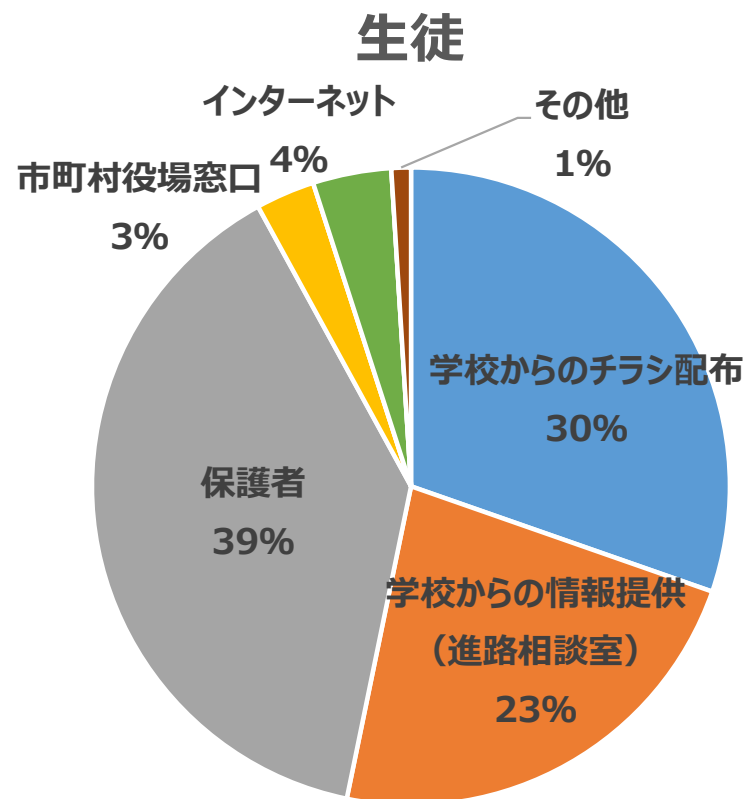
アンケート項目

1. 事業をどこで知ったか
2. 募集時期について
3. 本事業が県外大学等の受験を考える（認める）きっかけになったか
4. 県外へ渡航し感じたこと、受験時のエピソードなど
5. 今後の目標や将来の夢
6. 交通費として1日1,000円の旅行雑費は足りていたか
7. 本事業の良かったところ
8. 改善してほしいところ
9. 本事業を継続したほうがよいか
10. 支援者に伝えたいこと
11. 意見・要望

Ⅱ アンケート結果

1. 事業をどこで知ったか

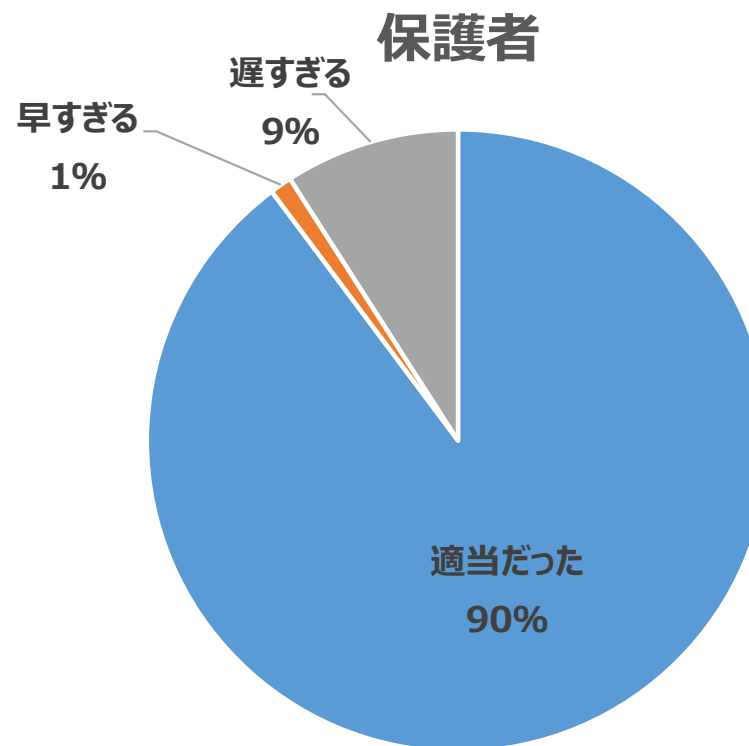
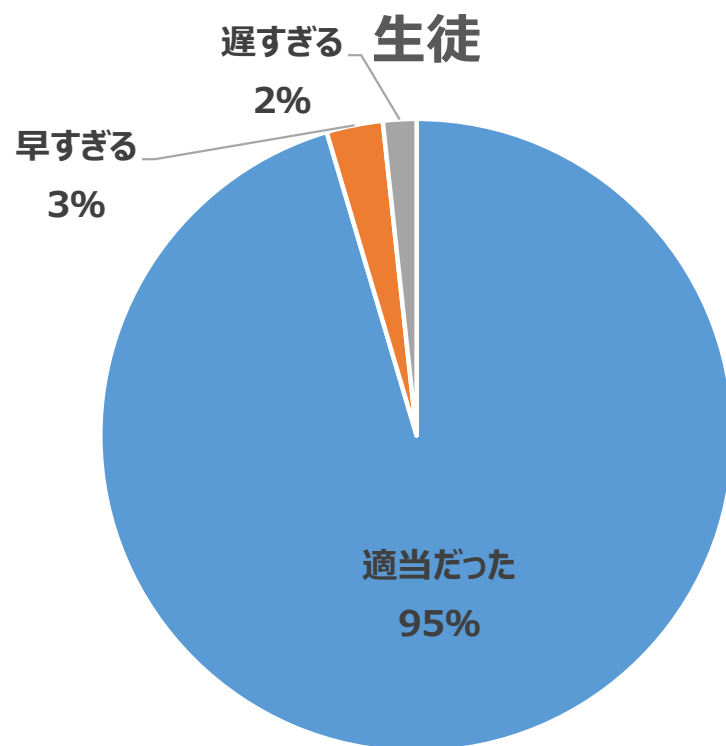
・情報源として学校（チラシやデジタル連絡ツール（※学校から保護者へのお便り等を配信するサービス））が最も多かったが、それ以外にも様々な機関等を通じて周知が図られているところである。
多くの子ども達が情報を得られるよう、引き続き幅広く周知に力を入れる必要がある。



Ⅱ アンケート結果

2. 周知・募集時期（事前周知：7月中旬 募集：8月9日～10月8日）について

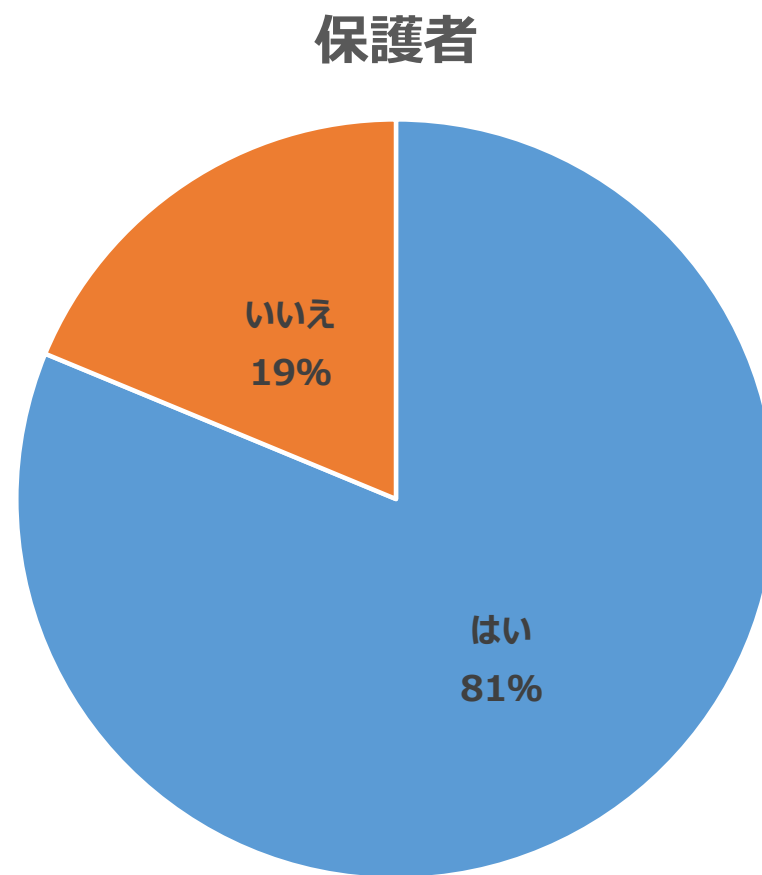
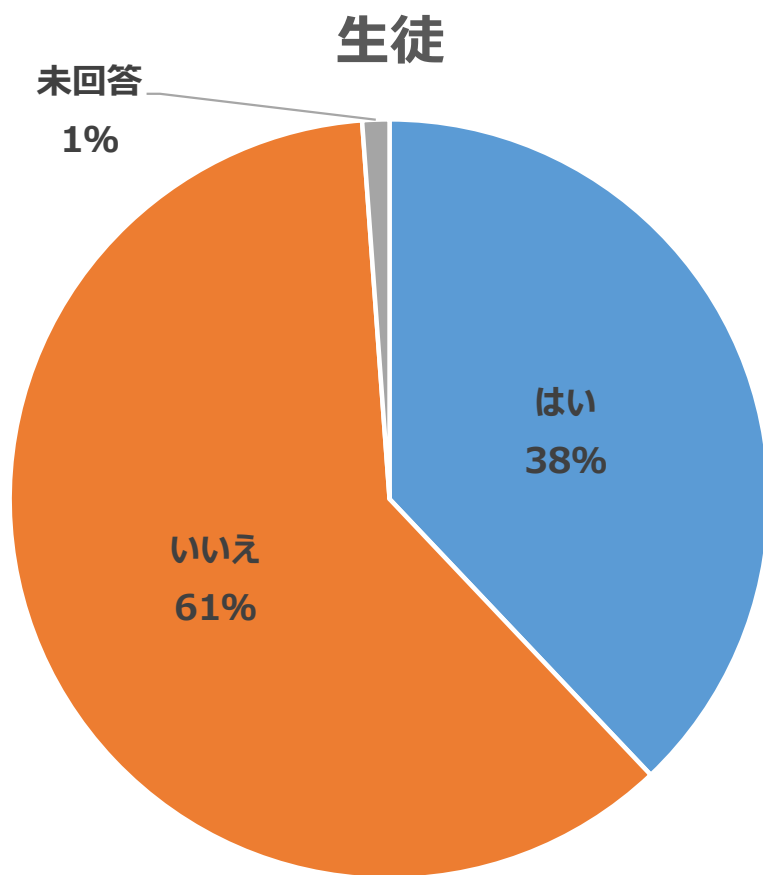
・令和5年度アンケートにて、募集開始より前に推薦入試等があり、事業を知った時には領収書等を破棄してしまったため渡航費を請求することができなかったという声があった。そのため、6年度は事業の事前周知を実施した結果、募集開始前に渡航した分の費用を請求できなかったという声は減った。



Ⅱ アンケート結果

3. 本事業が県外大学等の受験を考える（認める）きっかけとなったか

・生徒は保護者より早くに進学を考えているため、事業を知った時にはすでに県外受験を決めていることが多く、「はい」より「いいえ」が上回る結果となったが、保護者に県外受験をしたいと言い出すきっかけとなったとの声が多数あった。



Ⅱ アンケート結果

4. 県外へ渡航し感じたこと、受験時のエピソードなど

- ・友達や家族と離れた土地で過ごしてホームシックになった
- ・雪を初めてみたので感動した
- ・県外の海を見て、当たり前だと感じていた沖縄の綺麗な海が当たり前ではないと気づいた
- ・外出するたびに迷子になってしまった
- ・沖縄から受験ということで早く試験が終わるように大学側が配慮してくれた
- ・電車移動にかかる時間を想定しておらず、飛行機の予約をミスしてしまった
- ・交通費は飛行機代だけを考えていたが、他県の空港が1番近い空港だったので空港からの移動費がかかり想定以上の出費となった

Ⅱ アンケート結果

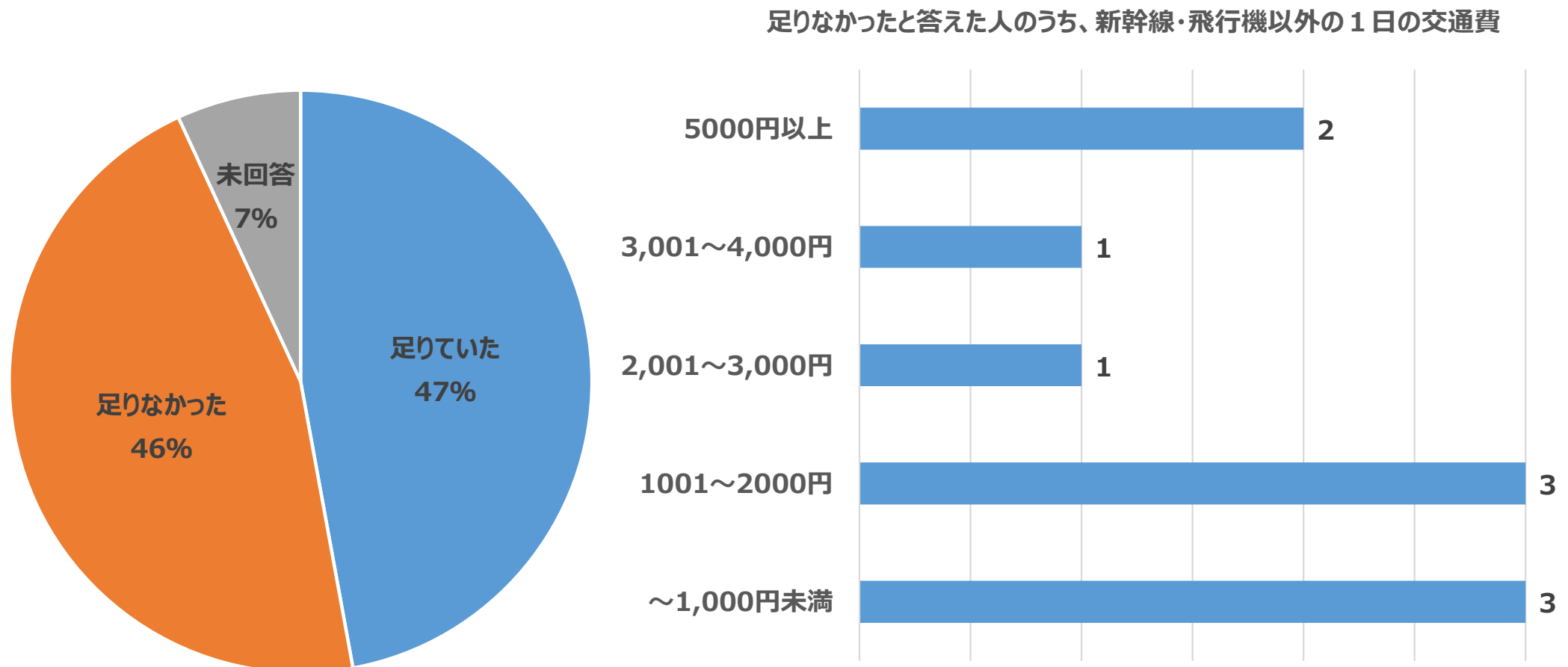
5. 今後の目標や将来の夢

- ・良い教師となれるように学業以外の経験も積んで、こどもに寄り添える教師になりたい
- ・伝統芸能を活用した町おこしをしたいので大学で専門的に学びたい
- ・若者の健康課題を解決できるサプリメントの開発をするための勉強を大学でしたい
- ・緊急治療を必要とする患者を助けることができるよう、フライトナース（ドクターヘリに搭乗し救急現場に駆け付ける看護師）になりたい
- ・スポーツ選手になるために大学ではスポーツ科学等を学び、自身の競技に生かせるよう頑張りたい
- ・古典の面白さをつたえることができる教師を目指しながら、中国王朝時代の雰囲気味わうために二胡にも挑戦してみたい

Ⅱ アンケート結果

6. 交通費として1日1,000円の旅行雑費は足りていたか ※生徒にのみ質問

・1乗車1,000円未満の交通費は実費精算不可としたため、1日の交通費の雑費として一律1,000円を支給したが、1,000円未満の交通費が積み重なり、負担が大きかったとの声もあった。



Ⅱ アンケート結果

7. 本事業の良かったところ

生徒

- ・渡航費を懸念して受験回数を減らすことなくチャレンジできたところ
- ・渡航費支援があることで、その分のお金を引っ越しや入学金などにまわせた
- ・上限10万円以内であれば何校受験してもよいところ

保護者

- ・受験シーズンは宿泊費、飛行機代ともに高額なため、支援があることで経済的な負担軽減ができたところ
- ・本事業のおかげで費用を軽減できたため、親も同伴してこどものサポートをすることができた
- ・返済がないためこどもの負担にならないところ
- ・長距離バスや旅行雑費の支給があるところ

Ⅱ アンケート結果

8. 改善してほしいところ

共通して、提出書類の煩雑さや学校への周知、同伴者 1 名の渡航費も支給してほしいとの意見が多かった。

生徒

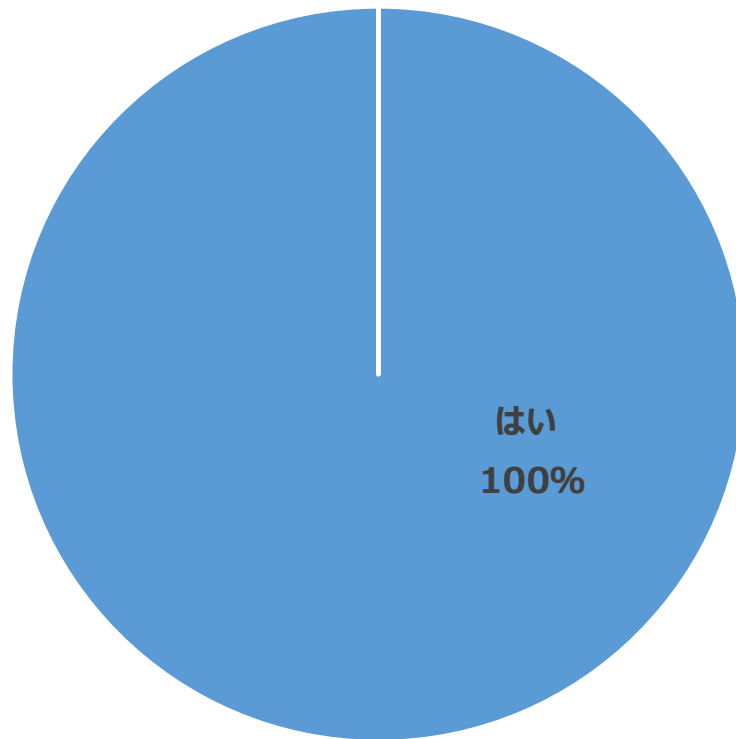
- ・オンライン申請できるとよい
- ・受験前に支給してもらえるとありがたい
- ・領収書の保管が大変

保護者

- ・渡航費用請求の書類がたくさんあったため、簡易的にするかオンライン申請できるとよい
- ・同伴者の費用も対象にしてほしい
- ・上限10万円をあげてほしい
- ・渡航してから支給されるまでに時間がかかるため、もう少し早くしてほしい
- ・浪人生も対象としてほしい

Ⅱ アンケート結果

9. 本事業を継続したほうがよいか ※保護者にのみ質問



理由

- ・学力があるのにお金を気にして親に言い出せないという経験をこどもにしてほしくない
- ・受験のプレッシャーに加えて、沖縄のこどもたちは金銭面での不安もあるため事業を継続してほしい
- ・ひとり親だと1校受験させるだけでも精一杯なため、この事業のおかげで安心してこどもを送り出せた

Ⅱ アンケート結果

10. 支援者に伝えたいこと

生徒

- ・私自身、ボランティアの一員として県民会議の皆様とともに募金活動を行ったことがあります。その時の募金がこのような事業に使われているのを知り、素敵な事業だと感じました。ありがとうございました。
- ・大学卒業後は沖縄に戻り高校の教師となって、所得や家庭環境によって勉強することができない子どもが少なくなるような社会にしたいと思っています。今度は自分が誰かを支えられる存在となれるよう頑張りますのでこれからも支援していただきたいです。
- ・母は行きたいところにいけばいいと言ってくれたものの、4人兄弟のためどうしても親に申し訳ない気持ちがあったところ、この事業を知って前向きな気持ちで受験に臨むことができました。

保護者

- ・子どもの友達の中には実力があり県外に行けるはずだったのに、親から経済的に厳しいので県外は諦めてほしいと言われていた子もいたと聞きました。この事業を継続して少しでもそのような子が減るといいなと思います。これからも皆様には支援を継続していただけると嬉しいです。
- ・長女（大学2年生）の時にも支援していただき、今は千葉で頑張っています。姉の姿を見て次女も県外進学を目指し、国公立大学を目標に全力で取り組むことができました。皆さまのサポートが娘たちの明るい将来への助けになりました。感謝申し上げます。
- ・家のことを考えて県外に行きたいと言いつけない子どもに、この事業のことを教えると安心した表情で勉強に取り組んでいました。皆さまの支援のおかげで子どもの夢を応援することができました。ありがとうございます。

Ⅱ アンケート結果

11. 意見・要望

保護者

- ① 支援があるとはいえ立替えが必要になるので、支援決定と同時に振込みがあると助かる
- ② 事業周知を学校・市役所以外にもしてほしい
- ③ 児童扶養手当受給者が対象者となっているので、手当の更新や申請の際に案内があると必要な人に情報が届くのではないかと思う

令和7年度収支予算

【報告事項(4)】

自 令和7年4月1日

至 令和8年3月31日

1 収入の部

区分	R7予算	R6予算	差額	摘要
(1)寄付・募金	22,000,000	22,000,000	0	企業、団体、個人からの寄付 ①法人 15,100千円 ②個人 4,400千円 ③職場募金 2,500千円
(2)サポーター会費	6,600,000	6,600,000	0	企業・団体2,400千円（年額120千円×20口） 個人4,200千円（年額12千円×350口）
(3)沖縄県負担金	46,219,000	34,835,000	11,384,000	県負担金（沖縄県子どもの未来県民会議負担金事業） ①こどもに寄り添う給付型奨学金事業 21,356千円 ②大学等進学サポート事業 24,863千円
(4)事業補助金	32,241,000	97,384,000	△65,143,000	県補助金 ①こどもの貧困緊急対策事業 18,751千円 ②沖縄県子どもの貧困対策推進基金補助金 6,490千円 全国食支援活動協力会補助金 ①企業連携を促す食品寄贈のシステム構築事業 7,000千円
(5)事業返還金	2,000,000	2,100,000	△100,000	こどもに寄り添う給付型奨学金助成事業における、その他奨学金との併用に伴う返還金
(6)繰越金	128,777,290	88,345,331	40,431,959	前年度繰越金
(7)その他	1,000	1,000	0	利子など
計	237,838,290	251,265,331	△13,427,041	

2 支出の部

区分	R7予算	R6予算	差額	摘要
(1)こども未来支援事業費	124,305,000	168,573,000	△44,268,000	①こどもに寄り添う給付型奨学金事業 39,201千円 ②こども未来応援助成事業 10,500千円 ③食支援連携事業 25,241千円 ④大学等進学サポート事業 42,363千円 ⑤企業連携を促す食品寄贈のシステム構築事業 7,000千円
(2)普及啓発事業費	5,600,000	7,200,000	△1,600,000	①イベント活動等による普及啓発活動 3,200千円 ②SNS等による普及啓発活動 1,900千円 ③その他広報・募金活動 500千円
(3)事務局運営費	4,688,000	5,183,000	△495,000	賃金職員、郵送費、消耗事務用費、寄付管理システム使用料、クレジットカード決済運用諸経費、その他事務局運営費
(4)県への償還金	1,000,000	1,380,000	△380,000	こどもに寄り添う給付型奨学金事業に係る県への償還金 収入予算の1/2で計上（県の負担割合）
(5)予備費	102,245,290	68,929,331	33,315,959	予定外の支出等に備えるための費用
計	237,838,290	251,265,331	△13,427,041	

沖縄こどもの未来県民会議 令和7年度事業計画

総会【6月】

県民会議設置要綱第5条の規定に基づき、県民会議の総会を招集する。

理事会【5月、3月】

県民会議の事業を円滑に推進するため、理事会設置要綱第4条の規定に基づき、理事会を招集する。

部会【必要に応じて部会長が招集】

理事会の円滑な実施のため、理事会設置要綱第7条の規定に基づき、以下の部会を招集する。

- 1 事業推進部会
- 2 普及啓発・評価部会

こども未来支援事業

児童養護施設退所児童やひとり親家庭等に対する支援のほか、NPO法人やボランティア等が協働して実施する活動に対し支援を行う。

(1) こどもに寄り添う給付型奨学金事業【通年】

児童養護施設等を退所し、大学や専門学校、大学院等へ進学するこども達へ入学金及び授業料（全額）、教材費等（定額）の支援を行うとともに、進学後の実態を把握し、個々の状況に応じた寄り添い支援に取り組む。

また、国の「高等教育の修学支援新制度」等の活用を促すとともに、本奨学金との併用に伴う返還が円滑に行われるよう返還方法の見直しを図る。

予算額 39,201,000 円

事業費（継続+R7 入学(23 名)）

35,690,000 円

事務費（人件費、使用料等）

3,511,000 円

(2) こども未来応援助成事業【通年】

こどもの貧困解消に向けた県民運動を推進していくため、こどもの貧困解消に取り組む企業及びNPO法人等を対象に企画提案事業の公募を実施し、採択事業に対し助成を行う。

（助成団体数）R7年度新規募集：5団体

予算額 10,500,000 円

(3) 食支援連携事業【通年】

（①おきなわこども未来ランチサポート、②日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社との協定に基づく食材提供支援）

地域で食事支援を行うこどもの居場所や十分に食事を摂ることが難しい家庭に対し、食品を安定的に供給する体制を整備することで生活の安定と子どもの居場所の持続的活動を支援する。

企業等からの食料品寄贈が減少傾向にあることから、令和7年度も継続してランチサポート事務局に、主に協賛企業の開拓を担う専門員を配置する。

予算額 25,241,000 円

県補助金 18,751,000 円

基金補助金（ふるさと納税）

6,490,000 円

(4) 大学等進学サポート事業【通年】

大学等に進学を希望する低所得世帯の高校生等の経済的負担

軽減と安心して学業に専念できる環境を確保するため、県外若しくは沖縄本島大学等の受験、進学又は進学先から出席要請を受けた行事への参加に係る渡航費用を支援する。令和7年度は沖縄県から県外大学等への受験・進学に加え、沖縄県離島から本島大学等への受験・進学も対象とし、利用者の拡充を図る。	予算額 42,363,000 円 事業費 (R7(県外) 募集人数(250名)) 10万円×250名 (R7(本島) 募集人数(200名)) 5万円×200名
普及啓発事業 沖縄こどもの未来県民会議の取組について、イベント活動やホームページなどによる普及啓発活動を行うとともに、県民会議の事業を継続的に行うための募金活動を行う。 (1) イベント活動等による普及啓発活動【通年】 県民運動の気運を高め、こどもの未来に対する支援活動などを拡大していくことを目的に、広く県民を対象としたイベントの開催や、他団体が主催するイベントにおいて学生ボランティアなどと連携した普及啓発活動、ポスターやニュースレター等を活用した広報活動などを通して、こどもの貧困解消に向けた県民会議の取組について周知広報を行い、支援の輪の拡大に取り組む。 イベント広報におけるSNSの発信強化や、こども・若者の啓発参画を募り、こども・若者の力による情報発信に努める。 (2) SNS等による普及啓発活動【通年】 ホームページやSNS等を活用し、こども未来支援事業や普及啓発事業における活動状況や県民会議構成団体の支援活動、支援を受けたこどもたちの声を広く発信するとともに、多様なメディア媒体を通じた情報発信に取り組む。関係団体アカウントとの相互フォローなど、SNSによる発信力の拡大手法を検討する。 また「こどもミライ」サイトを多くの子育て世帯や支援員等が活用できるよう、市町村等を介した周知に取り組み、サイト内の情報について適宜修正を図る。 (3) その他広報・募金活動【通年】 周年企業や各種団体等への寄付要請活動に取り組むとともに、県民一体となったこどもの貧困解消に向けた取り組みを推進するため、企業等における自主的な支援活動について周知・広報を行い、多大な貢献をされた企業や個人に対して感謝状を贈呈する。 また、寄付型自動販売機、募金箱の設置促進や企業協力による寄付付き商品への協力依頼等の寄付活動に継続して取り組む。 メディアを活用した広報や電子決済による寄付など、多くの県民に参画してもらうため広報・寄付活動を拡大する。	予算額 3,200,000 円 イベント委託料等 3,200,000 円 予算額 1,900,000 円 ホームページ保守管理 1,000,000 円 ミライサイト保守管理・改修 900,000 円 予算額 500,000 円 ポスター、チラシ、ニュースレター等の印刷等 500,000 円